日本農業新聞 令和７年７月22日掲載

農業技術プリズム

豚ぷんBB肥料の活用

ブロッコリーに有効
資材価格の低減期待

国内で使用されている化学肥料の主要な原料は、ほとんどを輸入に依存しており、国際情勢の変化によっては、原料の不足による肥料価格の高騰や化学肥料の不足などが懸念されています。そのため、国内の肥料資源である家畜ふん尿などの有効活用を図るため、2020年12月に低価な原料である堆肥と化学肥料などを配合できるよう、肥料法の改正が行われました。

そのような中、本県でも豚ぷん堆肥ペレットを重量ベースで20％配合したBB肥料（以下、ペレット20％配合BB肥料）を作成し、県内のさまざまな圃場（ほじょう）で、ペレット20％配合BB肥料を元肥とした場合の年内どりブロッコリーの適応性を評価しました。

その結果、ペレット20％配合BB肥料は、花蕾（からい）や茎葉の重量や窒素、リン酸、カリなどの内容成分は通常使う肥料と変わらず、収穫後の土壌中のリン酸やカリウムなどの蓄積傾向も示さなかったことから、有効な肥料と判断できました。

また、安価な堆肥が原料の一部なので、肥料価格の低減が期待できるメリットもあり、本年より有機入りダイナミックエコスターという肥料名で製造・販売されています。

肥料の違いが年内どりブロッコリーの収量に及ぼす影響

試験場所	試験区	花蕾重（キロ/10アール）	茎葉重（キロ/10アール）
センター内（諫早市）	ペレット20％配合BB肥料	3032	5768
	慣行肥料	2729	5295
現地（西海市）	ペレット20％配合BB肥料	1672	4365
	慣行肥料	1610	4341